

「ベトナムに直ぐに行きなさい」の一言が決め手に (株式会社 東洋電制製作所)

会社概要(平成24年10月現在)

- 所在地:富山県中新川郡上市町横越41
- 代表者:代表取締役社長 片山 浩之
- 資本金:9,460万円
- 売上高:40億円
- 従業員数:180名
- URL:<http://www.toyodensei.co.jp/index.html>

①事業概要

＜電気制御装置製造・販売＞

元々は量産の制御盤に使用するワイヤーハーネスを全て社内製作していた。しかし、仕事量の増加に伴い、近年では70%～80%を別会社に委託している。一方で、その委託先会社に他の顧客から仕事が多く入るようになり、当社が希望する生産量に限界が来ていた。そのため、海外での進出を検討し、手先が器用と言われていたベトナムを候補地に挙げた。

また、以下の2つの事に対処できるのではないか、という思いが、ベトナム進出の計画を後押しした。

- ①コスト削減を目指す当社の顧客は、FTA及び為替対策上、海外調達比率の増加を図っている。
- ②競合各社も海外進出でのコスト低減を図っており、当社の国内コストでは対抗できなくなりつつある。

②海外展開概要

＜ベトナム進出に向けた取組＞

ベトナムが選ばれた理由としては、豊富な労働力、勤勉さ、低賃金があったことが挙げられる。また税制面も優遇されていたことも大きい。しかし、現地のことをよく知らなかったため、情報収集を開始した所、金沢にある中小機構北陸支部でベトナムに関する個別相談会が開催されることを知り、そこでアドバイスを申し込んだ。平成19年以降、会社設立、工場用地、レンタル工場、各種契約、ベトナム人の研修・採用・雇用・賃金レベル等の様々な問題に関して、東京やベトナム現地において、20回以上アドバイスを受けた。

③取組の重点(活用した支援策を含む)

当初の目論見では、ほとんどの中小企業の方々が考えているのと同様、小さなレンタル工場を借りて、少ないリスクでの立ち上げであった。しかし、レンタル工場は1,000㎡が最小借入面積であり、想定以上に資金を要することが判明した。そこで、レンタル工場ではなく、自分で土地をリース契約し、小規模な自社工場を造ることにしたのである。

現地のことを全く知らなかったことから、ハノイ在住の現地アドバイザーのアドバイスを受けながら、工場用地の選定を進めた。最終的に、日系企業が全く進出していなかった工業団地に決まった。通常であれば1万㎡からでしか借りられない用地を、5,000㎡で借りることができた。当初探していた2,000㎡という土地よりも広かったものの、この土地で自社工場を建てることに決めることが出来た。

④今後の事業展開について

中期計画の中で、技術者の育成(研修生を1～2年間、日本で教育させ、最終的にはベトナムに戻りベトナム工場で設計)を予定している。

また、ベトナム工場の増築も予定している。長期的な計画として位置づけており、その理由は、制御盤の製作を行うことがある。



(平成24年10月現在)

データ出所:(独)中小企業基盤整備機構